# ホッとできる花いっぱいのまちに！
# 災害の時も役立つ花壇（プランター）に！

## 花とみどりいっぱい運動助成事業を使って花を植えませんか。

市民グループが土地所有者の承諾を得て、空き地等に花苗を植えたりプランターを設置する場合、1団体6万円相当分を上限に花苗が補助されます。詳しくは下記へお問い合わせください。
（田辺市管理課公園係0739-26-9966）

## そして、植えた花のそばにソーラーライトを立てませんか。

災害で停電時、行く道を照らしてくれます。防犯にも役立ちます。
（ソーラーライトの相談・申込：田辺市市民活動センター0739-26-9833）

新庄公園のコスモス

NPO法人 花つぼみと、当日ボランティア（県・市からも呼びかけ）の皆さんで植栽。

立戸町で輝くプランターのソーラーライト

町内会の班ごとで植えました。

グループで、またご近所の皆さんで、花植えをすることで、繋がりが広がります。普段の助け合いも、災害時の支え合いも、繋がりがあってこそ。花植え活動を進め、絆を深め、住みよいまち・災害に強いまちにしていきましょう。

## ＼秋冬春ながーく楽しめる花／

## NPO相談スケジュール

【相談日程】
12月8日（金）
1月12日（金）
2月9日（金）

「Web会議」によるNPO相談も随時おこなっております（要予約）。
詳細はNPOサポートセンターのHP等をご覧ください。
※市民活動センターのパソコンでも相談は受けられます。
●必ずご確認・ご予約をお願いします。
※ご予約がない場合は相談員が不在の場合があります。

【開催時間】11:00～16:00
【開催場所】田辺市民総合センター2階 相談室1

Vol.53
2023年11月
■発行：田辺市市民活動センター
■編集・運営団体：NPO法人市民活動フォーラム田辺
■お問い合わせ：〒646-0028　和歌山県田辺市高雄一丁目23番1号
（田辺市民総合センター2F）
■TEL＆FAX：0739-26-9833
■ホームページ　http://www.aikis.or.jp/~cacenter/
■Eメール　cacenter@mb.aikis.or.jp
■開館時間：火曜日～土曜日 9:00～18:00（第３土曜日、祝祭日、年末年始、お盆は除く）



Tanabe Citizen Activity Center
Vol.53

# 田辺市市民活動センターだより

## 災害の時トイレはどうなる？

### 「食べ物より、トイレを！」

東日本大震災の時に聞いた言葉。これまでの大きな災害では、トイレはすぐに汚くなり、使いたくない状態に。
近々起こるであろう大地震だけでなく災害は身近に起こっています。断水（→流れない）・停電（→浄化槽の機能低下）・配管の破損（→汚水漏れ）等で水洗トイレは使えなくなります。そんな時に、非常用携帯トイレがお役立ち！
いつものトイレ、流れないけど用を足す場所として使えるので、汚れる前に、災害用に変えよう！

1 レバーをテープで固定し、中にたまっている水を拭き取る。

2 大きなビニール袋をかぶせて固定。

3 非常用携帯トイレ（黒ビニール袋・凝固剤等）を準備。

4 ビニール袋の上に黒ビニール袋をかぶせて、用を足す。

5 排泄物の上に凝固剤をかけると水分に反応し、ゼリー状に固まる。

6 黒ビニール袋をくくって密閉し、可燃ごみとして廃棄。

避難所に行っても、すぐには非常用携帯トイレは配られないし、数も足りない・・・
自分が当面必要な分は用意し、いつも持つカバンにも入れておこう！

## 楽しい手話講座

今回のテーマは「かまわない」

右手小指の先を二回あごにつける。
表情で「？」や「OK」にもなります。

手話説明とイラスト提供
「手話サークル山びこ」

# 市民活動が このまちをより良くしてるんだね！

## 田辺市社会福祉協議会 ボランティアセンター通じ 行われたボランティア活動

花植え花壇の手入れ

福祉施設まつり手伝い

古切手整理ボランティア

平和公園掃除

容器包装リサイクル センター手伝い

地域福祉フォーラム 手伝い

赤い羽根共同募金街頭 募金活動

## 町内会とテーマ型の市民活動団体が手を組むことで より充実したまつりに

盆踊り愛好会「ゑんや」 によるリード

南紀こどもステーション協力で 非常用携帯トイレ使用実験

南ステソーラン団で にぎやかに

田辺市市民活動センターには約190の団体登録があり、繋がり作りや課題解決に向け活動を進めています。住民自身が活動をしていくことで、助け合いも進み、災害にも強いまちになっていきます。少しずつの力を持ち寄って自分にとっても住み良いまちに作っていきましょう！田辺市市民活動センターは団体を繋ぎ提案し、活動を支援しています。



# 災害はすぐ身近に！ できるかぎりの備えと早期の避難を！ そして支えあいを！

写真提供：海南市社会福祉協議会

今年6月、台風2号などの影響で降り続いた大雨。海南市では1200棟超の住宅が浸水し、災害救助法が適用されました。道も冠水し、仕事先から帰れずに車で一夜を明かしたという知人も。

紀南から支援に駆け付けたボランティアのひとりで、阪神淡路大震災も体験された幾島浩恵さんにお話をお聞きしました。

**被災地に ボランティアに 行こうと 思ったのは？**

ボランティア元年と言われる阪神淡路大震災。神戸に住んでいたので、多くのボランティアの皆さんに助けてもらいました。その時の恩返しのつもりです。そして、近いうちにここでもきっと起こる大災害の時、また、助けてもらうかもしれないので、今できることをしています。

**気をつけた ことは ありましたか？**

ぬかるんで危険なものが見えないので、踏み抜き防止の中敷きがある靴を履いて作業しました。そのあと天気が良くて乾いてくると細かい砂煙がすごくて、ゴーグルや防塵マスクは必須でした。熱中症にも注意しました。
使えなくなったものはゴミ、と通常思いますが、思い出の詰まった宝物かもしれないので、勝手に捨てたりはしません。

**ひとこと メッセージを**

「できるひとが　できるときに　できることを」 現地に行くだけがボランティアではありません。被災者は「同じ事を繰り返してほしくない」と思っています。今、皆さんにできることは何なのか、命や大切なものを守るために考えてみませんか。

突然、車で泊まることになった話を聞いて、非常用携帯トイレ・水・食料・タオルケット等を積んでおくと役立つな、家にいる子どもに近所の方が声をかけてくれると助かるなと思いました。

いざという時、たよりになるのは、事前の準備と地域の繋がりですね！